

Science

Café

Café

Café

Café

Café

Science Café

in Sendai

入場
無料

東北大学サイエンスカフェ

その場での参加自由!市民の方、中高生、大学生、企業の方、メディアの方、親子での参加歓迎!

2007-2008 後期プログラム

第27回

日本学術会議化学委員会と共同開催

10/26(金)

会場 仙台市科学館 時間 18:00~19:40

炭素から新素材を作り出す

榎 敏明 (東京工業大学大学院理工学研究科教授)

折れ曲がる電子製品をつくる

宮下 徳治 (東北大学多元物質科学研究所教授)

第28回

液晶の秘密と液晶テレビ

—未来のディスプレイはこうなる!—

11/16(金)

内田 龍男 (東北大学大学院工学研究科教授)

第29回

守れ!海中林

—磯焼けってなんだろう?—

12/14(金)

谷口 和也 (東北大学大学院農学研究科教授)

第30回

ベトナムから見える発展途上国経済と
グローバル化の真実

1/18(金)

川端 望 (東北大学大学院経済学研究科教授)

第31回

アンモナイトが語る大陸移動
~古生物地理のロマン~

2/22(金)

永広 昌之 (東北大学学術資源研究公開センター総合学術博物館教授)

第32回

そこまで来ている新しいエネルギー
—燃料電池のしくみ—

3/21(金)

佐多 教子 (東北大学大学院工学研究科准教授)

会場

せんだいメディアテーク1階
オープンスクエア/カフェ(第27回を除く)

時間

18:00~19:45

お問い合わせ

東北大学広報課
022-217-4977

<http://cafe.tohoku.ac.jp/>

※テーマ・講演者については都合により変更となる場合があります。



TOHOKU
UNIVERSITY

Tohoku University Science Café in Sendai

「サイエンスってむずかしい」、「質問したいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない」サイエンスカフェとは、そう思っている人たちと科学者が、コーヒーカップを片手にサイエンスについて気軽に話し合い、サイエンスの楽しさと社会貢献の姿を知ってもらう場です。

せんだいメディアテーク1階のオープンスクエア/カフェを会場に、毎月1回のペースで開催します。

予約なしに、無料で、誰でもその場で自由に参加できるスタイルです。

職場での仕事や学校が終わってから参加できるように、平日の18:00~19:45に開催します。

市民の方、中高生、大学生、企業の方、メディアの方の参加をお待ちしています。

最初の30分は、取り上げた話題に関する最新の研究成果を一人の講演者が分かりやすく紹介します。

次の30分は、ラウンドテーブルごとのトークタイムとして、それぞれのテーブルに東北大学の学生・教員がファシリテーターとして参加し議論します。

最後の40分は、全体的な質疑応答の時間とし、ラウンドテーブルでの議論で出た質問に講演者が答えます。

Scientist Profile

講演内容はホームページをご覧ください

<http://cafe.tohoku.ac.jp/>



たにぐち かずや
谷口 和也

東北大学大学院農学研究所教授

谷口教授は、地球上で最も生産力が高い沿岸岩礁生態系の成立機構を解明する水圏植物生態学が専門です。長年の独創的な研究によって新たに創出した学問分野で、東北大学が世界をリードしています。自らスキューバ潜水により海中林が崩壊する磯焼けの機構解明と海中造林に精力的に取り組む、多くの成果を挙げ、水産業・地域の発展に大きく貢献しています。1998年には「海藻群落の形成に関する生態化学的研究」で日本水産学会進歩賞を受賞されています。



かわばた のぞむ
川端 望

東北大学大学院経済学研究科教授

川端教授は産業発展論を専門としており、産業と企業のケース・スタディを先進国から発展途上国まで手がけております。とくに日本、中国、タイ、ベトナムなどの東アジア地域でフィールドワークをもとに、東アジアにおける鉄鋼産業の構造とダイナミズムについて集中的な研究を行っています。



えいひろ まさゆき
永広 昌之

東北大学学術資源研究公開センター総合学術博物館教授

永広教授は、いくつかの古い大陸が徐々に衝突・合体して成長してきた、アジア大陸の地質構造発達史の研究をアンモナイト化石資料などを用いて行っています。古生物資料は、地層の年代決定とともに、古生物地理学の復元をとおして、大陸相互の関係を科学的に推理するデータとしても用いることができます。永年蓄積された多数のデータを背景に「スローサイエンス」、日本列島の中では古い地質からなりたっている、南部北上帯の誕生から現位置への移動の過程の復元にとりかかっています。



さた のりこ
佐多 教子

東北大学大学院工学研究科准教授

佐多准教授は、イオン導電性セラミクス材料の研究が専門です。特に燃料電池などに用いられる固体電解質材料の薄膜・多層膜化による研究を中心に、燃料電池の高性能化を目指した研究を進めています。2000年には、2年間客員研究員を務めたドイツのマックスプランク固体研究所で行った、フッ化物イオン導電体多層膜の研究成果を共同研究者であるMaier教授と共にNature誌に発表し、固体電解質材料を扱うイオニクスの分野で注目を集めました。



えのき としお
榎 敏明

東京工業大学大学院理工学研究科教授

榎教授は、物性化学が専門で、電気を流す有機物、磁性をもつ有機物、ナノサイズの炭素物質の研究をおこなっており、最近、特異な電子的・磁気的性質をもつナノメートルサイズのグラファイト(ナノグラファイト)の研究で興味ある成果を挙げています。このなかで、グラファイトを小さくしてゆくと磁性をもつようになり、鉄のような強磁性をもつ可能性があることを明らかにしました。この成果により2004年度に炭素材料学会学術賞を受賞されています。



みやした とくじ
宮下 徳治

東北大学多元物質科学研究所教授

宮下教授は、高分子材料分野の研究が専門です。特に極めて薄い高分子フィルムを集積して、電子機能、光機能、センサー機能などを発現する研究を行っています。固いシリコン半導体素子とは異なった柔らかな、人間の感性に対応した新規なフィルム電子素子の作成を目指しています。1997年に高分子学会賞を受賞し、現在、高分子学会の副会長、新産業創造物質基盤センター長、経産省NEDOのプロジェクトリーダーなどを勤めております。



うちだ たつお
内田 龍男

東北大学大学院工学研究科教授

内田教授の研究は液晶の物理、化学、電子工学にわたり、高純度液晶材料の合成からディスプレイへの応用まで幅広い研究開発に長年取り組んでいます。特にカラー液晶ディスプレイの考案、高品位液晶テレビの開発などに対して、科学技術庁長官賞、内閣府産学連携功労者表彰文部科学大臣賞、米国情報表示学会特別業績賞、Jan Rajchman賞など多数を受賞されています。